

透析患者における掻痒の実態調査～河北総合病院・透析センターにて～

○ 渡邊 温子（渡辺あつこ） 増田有香 篠田俊雄

はじめに：掻痒と皮膚の乾燥は、血液透析患者において最も頻度が高い皮膚合併症である。当センターにおいても「全身が痒く掻いてしまう」「痒み止めを処方してほしい」という患者が多くいる。そこで、当センターではどれ位の患者に掻痒があるのか、セルフケアは行われているのかを今回の調査で明らかにする事で、今後の看護の指導法の見直しと、それにより掻痒症状の改善につなげていく事ができればと考え、この研究に取り組むこととした。

方法：当センター患者 37 名に対し「痒みの重症度基準(白取の分類)」による評価と、掻痒に関する質問項目を研究者が作成。構造化面接法にて実施、分析を行った。

結果：白取分類において「軽微」以上の掻痒を認めた患者は、全体で日中 71.2%、夜間 62.4%であった。そのうち掻破行動をするのは 70%以上、掻痒時の対処法を指導されたことがあるのは 23%ときわめて少数であった。

考察：掻痒の改善を図るため、今後は皮膚のセルフケアの方法を取得してもらうこと、そのための看護介入が必要である。